

令和5年度 社会福祉法人湖南省社会福祉協議会事業報告

【社会福祉協議会基本理念】

『一人ひとりが“ぬくもり”と“安心”と“希望”にみちたまちづくりをめざして』

第四次地域福祉活動計画に基づく推進事業

【地域福祉活動計画の基本理念】

『一人ひとりができる役割 もれない支援 行ったり来たりの思いやりのまち』
～ “ぬくもり”と“安心”と“希望”にみちたまちづくりをめざして～

本会は、地域福祉を推進する中核的な団体として基本理念「一人ひとりが“ぬくもり”と“安心”と“希望”にみちたまちづくりをめざして」に基づき、2年目となる「第四次地域福祉活動計画」の4つの基本目標に沿って、地域住民や諸団体の参加や協力、協働による多様な福祉活動や福祉サービスの推進に積極的に取り組んできました。

このような中で、「地域共生社会」の実現に向けた包括的支援体制整備の動きが加速し、湖南省においても重層的支援体制整備事業の準備を進めていく動きがあり、社協においても今まで培ってきた地域や関係機関・団体等との関係を確認し、職員が国、県の研修の受講や支援体制の準備を始めました。

特に市から生活体制支援整備事業を受託し、中学校区に第1層地域支えあい推進員を配置することにより、地域まちづくり協議会の第2層地域支えあい推進員と連携しながら地域づくりへ支援の取組を強化し、高齢者や子どもはじめ市民の地域での「地域カフェ」、「子ども食堂」、「地域サロン」、「学習交流の場」など居場所づくりが増えてきました。

また、1月には、社会福祉センターにおいて市民やボランティア、地域まちづくり協議会、福祉団体、福祉施設、NPO法人等のご協力により、多くの方に参加していただき「第2回地域福祉大会～わがまるフォーラム～」を開催することができました。

生活困窮に関する相談事業においては、新型コロナウイルスの特例貸付事業が終了を迎え、償還が始まり、返済免除申請の対応のほか、免除の対象者以外からも返済が見通せないという相談が多くなり、市生活困窮者自立支援相談窓口や県社会福祉協議会をはじめ、関係機関と連携し、償還期間猶予や生活の再建に向けた長期的な支援（フォローアップ事業）をしました。

市民や企業、ボランティア、行政の協力を得て7月、12月に「フードドライブ事業」を実施、2月には、「子どもの未来づくりフォーラム」を開催し、市民や各関係機関に助産婦による命の大切さを改めて考えさせられる講演と子ども未来助成金の取り組み事業「SUKUSUKUかふえ」の子どもの居場所づくり発表を行いました。

ホームヘルプセンター、いきいきサロン「なごみ」では、利用者をはじめ職員が感染予

防を徹底しながら介護サービスの提供を継続的に実施できました。しかし、ホームヘルプセンターでは、人材確保が困難となり新規利用者の受け入れができず、財政的に厳しい状況が続きましたが、年度末には体制が徐々に整えられ、サービス提供が行えました。

本会では、令和5年度においても地域住民及び福祉組織・関係者の協働により、地域生活課題の解決に取り組み、誰もが支え合いながら安心して暮らすことができる地域づくりを推進することを使命とし、地域住民や関係機関・団体等と連携を図り、事業計画に基づく事業の実施において、工夫をしながら各事業に取り組みました。

以下、具体的な事業実施項目について、次のとおり報告します。

* 【○○○○事業】は会計区分名

基本目標1 地域活動を支える人づくり

地域福祉を推進するには、その担い手となる人材を確保・育成することが必要です。人権教育や福祉教育、多様な交流の推進により地域への関心や福祉意識の醸成を図り、市民のボランティア活動や多様な活動への参加を促進します。また、地域の核となり、けん引役となるリーダーの育成に努めます。

1 人権尊重の推進

① 人権教育・啓発の推進

○あらゆる差別の撤廃や人権擁護の意識を高めるため、市民、ボランティアや福祉団体に対して人権啓発や研修を実施します。

◆市民を対象とした人権啓発を兼ねたテーマ別研修会の開催【地域福祉活動事業】

ボランティア向け、市民向けに研修会を開催し、障がいへの理解や人権意識の醸成を促した。

点訳ボランティア養成講座 【7月～3月の第1火曜日】

視覚障がいについて学ぼう ガイドボランティア養成講座【全2回】

おはなし（傾聴）サポーター養成講座【全2回】

◆ボランティアグループへの人権学習会の実施【地域福祉活動事業】

実施できていない。

◆地域団体・福祉団体向けの人権啓発の推進と協力【地域福祉活動事業】

市主催「出会い・気づき・発見講座」「豊かなつながり創造講座」の開催パンフレットを本会指定管理施設で案内と掲示、人権週間時に啓発物の配布に協力しました。

◆市民向け権利擁護セミナーの開催【地域福祉権利擁護事業】

特定非営利活動法人ぱんじーと共催で、令和5年12月9日（土）13:30から16:00甲南公民館にて、「令和5年度 市民向け権利擁護セミナー」を開催した。

講演：「あなたの力をかしてください～市民後見人が活躍する地域～」

特定非営利活動法人尾張東部権利擁護支援センター

「あすライツ」センター長 住田 敦子 氏

対談：『市民後見人』の活動を通して（インタビュー形式）

インタビュアー 住田 敦子 氏

インタビュー 市民後見人 橋野 玲子 氏

参加者：29名

○誰もが参加しやすいイベントを企画・開催します。

◆老人福祉センターまつりの開催【石部老人福祉センター管理事業】

令和元年に開催後は新型コロナ感染拡大防止の為、中止した。4月10日（月）にサークル代表者と令和5年度の開催について協議した結果、令和5年度は次年度開催に向けての準備期間とし、6月19日（月）・9月11日（月）・1月15日（月）に次年度開催に向けて協議しました。

②多様な交流の促進

○各種イベントに参画し、ボランティアや福祉団体等の参加促進など交流の活性化を支援します。

◆ボランティア交流会、ボランティアカフェの開催【ボランティア活動事業】

・ボランティア活動の周知と市民との交流を目的に、定期的なボランティア販売会「ボランティア市」を開催し、売上の一部を社会福祉に寄付した。

7回実施（7月・8月・9月・10月・12月・1月・2月）

・11/26（日）イオンタウン湖南主催の「タウン de ツナガルフェス」に参加

（ボランティア2グループ協力：出前マジック・手話サークルめだか）

◆まちづくりセンターまつり、ボランティアまつり、ふれあい広場の支援

【地域福祉活動事業】

ボランティア連絡協議会主催のボランティアまつり、各地域のまちづくりセンターには職員が出向き協力を行った。

○11月3日（金） ボランティアまつり

○10月22（日）～12月10日（土） 共同募金活動の啓発など

- ・菩提寺まちづくりフェスタ
- ・岩根まちづくりセンターまつり
- ・下田まちづくりセンターまつり
- ・石部まちづくりセンターまつり
- ・三雲じんけんまつり
- ・石部南ふれあいまつり
- ・水戸まちづくりフェスタ

③多文化共生の推進

○外国人と一緒に活動できるような仕組みづくりと活動を支援しました。

◆市国際協会主催の国際交流サロン、ワールドフェスタへの参画【地域福祉活動事業】

参加できなかった。

◆外国人住民との懇談会の実施（国際協会との連携）【地域福祉活動事業】

参加できなかった。

2 地域への関心と福祉意識の醸成

①地域への関心の涵養

○地域の福祉活動について紹介し、関心を持ち意識を高められるよう取り組みをしました。

◆わがまるフォーラムの開催【生活支援体制整備事業】

広く湖南市民を対象とした支えあいのまちづくりに関する講演会『わがまるフォーラム』を令和6年1月20日（土）湖南市社会福祉センターにて開催した。

※地域福祉大会と同時開催した。

◆地域つながる応援講座、出前講座の開催【地域福祉活動事業】

地域の活動に関心をもっていただくよう、各種のテーマを設定して年間を通じて講座を開催した。上下半期に分けて社協講座を分かりやすく一覧にしたパンフレットを作成し、広く周知できるように工夫した。

◆シニア応援講座【石部老人福祉センター管理事業】

高齢者が自ら学び、生きがい探しや仲間づくりなど、世代交代をしながら地域づくりに楽しく参加できる「シニア応援講座」を開催した。

① 「樹脂粘土クレアアート教室」 令和6年2月6日（火）と2月20日（火）

参加者延べ8名

② 押絵の干支づくり

令和6年2月8日（水）参加者13名

②福祉教育の推進

○ボランティア講座の開催やボランティア体験の機会などを提供します。

◆きつずぼらんていあ講座の開催【ボランティア活動事業】

出張！きつずぼらんていあ in 夏休み【全2回】開催した。参加者31名

（4ボランティアグループ、中学生ボランティア9名協力）

○学校や教育の場における福祉活動や学習会に協力し、理解を得られるよう取り組みます。

◆幼、保、こども園など子育て関係機関や学校等との連携した総合学習、文化祭等への協力と助言【ボランティア活動事業】

◆小学校での福祉ボランティア体験の実施【ボランティア活動事業】

市内小中学校への福祉体験協力ほか、地域コーディネーターと連携し、ボランティア体験協力の助言を行いました。

◆中高生ボランティア体験講座の開催【ボランティア活動事業】

市内小中学校への福祉体験協力

三雲小学校	3年生 85名	手話・視覚障がい者のお話
石部小学校	3年生 30名	手話・点字
石部南小学校	3年生 35名	点字・アイマスク
岩根小学校	3年生 30名	手話・視覚障がい者のお話
菩提寺小学校	3年生 67名	手話・車椅子
菩提寺北小学校	3年生 50名	点字・アイマスク・視覚障がい者のお話
下田小学校	3年生 65名	点字・アイマスク
甲西中学校	1年生 132名	手話

市内小中学校へのボランティア体験協力

甲西中学校	1年生	文化体験講座《苔玉づくり、折り紙》
菩提寺小学校		クラブ活動《パチンコヘリコプター、竹とんぼ、折り紙》
石部小学校	1年生	昔遊び交流会《竹とんぼ》
三雲小学校	1年生	昔遊び《竹とんぼ、折り紙》
石部南小学校	1年生	昔遊び《竹とんぼ》
菩提寺北小学校	1年生	昔遊び《竹とんぼ、折り紙》

- ・学生ボランティア講座（ひとり暮らし高齢者へ弁当を配達）学生参加 18名
- ・ボランティアまつり
 - 甲西中学校生 ボランティアスタッフとして 10名参加
 - 甲西北中学校生 ボランティアスタッフとして 20名参加
- ・きつずぼらんていあスタッフとして甲西北中学校生 7名参加

3 地域活動への参加・参画の促進

①ボランティア活動の促進

○目的型のボランティアなど各種の養成講座を開催し、ボランティアに関心を持ってもらうとともに、ボランティア活動への参加を促進します。

◆ボランティア入門啓発事業、各ボランティア体験講座の開催【ボランティア活動事業】

- ・レイカディア大学在学学生 ボランティア説明会 参加者 4名
- ・視覚障がいについて学ぼう「ガイドボランティア養成講座」全2回 参加者延 30名
- ・点訳ボランティア養成講座（グループ「昴」活動日に同時開催）7～3月 参加 10名
- ・趣味からはじめるボランティア講座（出前マジック編）全3回 参加者延 23名
- ・中高生ボランティア講座 全4回 参加者延 26名
- ・おはなし（傾聴）サポーター養成講座 全2回 参加者延 34名

○ボランティアセンターを運営し、広報紙等でボランティア活動を紹介するなど、ボランティア活動についての情報発信と意識啓発を図ります。

◆ボランティア連絡協議会の支援【ボランティア活動事業】

ボランティアグループ一覧パネルの作成、掲示した。
7月10日・9月29日 ボランティア連絡協議会広報紙「てと手」発行
ボランティアまつり主催

②多様な活動への参加促進

○地域における活動が活発になるよう、情報提供や活動発表の場の支援を行います。

◆ボランティアまつりの支援【ボランティア活動事業】

ボランティアまつり 11月3日 約900名を超える来場者 協力ボランティア延330名

◆ボランティア社協会長表彰式での地域実践発表の実施

【地域福祉活動・ボランティア活動事業】

1月20日（土）地域福祉大会で会長表彰受賞グループの活動発表

◆わがまるフォーラムの開催【生活支援体制整備事業】

広く湖南市民を対象とした支えあいのまちづくりに関する講演会『わがまるフォーラム』を地域福祉大会と同時開催した。

◆地域担当職員（地域福祉支援員）の配置【地域福祉活動事業】

7つのまちづくり協議会すべてに職員を地域福祉支援員として配置。まちづくりセンターまつりなどに参画し地域と連携を図った。

◆子どもの未来について考えるフォーラムの開催【子ども・子育て支援事業】

子どもたちが家庭の経済力に影響されることなく教育を受け、社会の中で自立しているように、私たちに何ができるのか、何をしていくべきなのかを考えるフォーラムを開催し、65人（会場参加：62人、オンライン参加：3人）の参加があった。

実施場所 湖南省社会福祉センター

開催日 令和6年2月10日（土）13:30～15:00

内容 講演「ちからいっぱい【生】を全うするために

助産師の視点から…豊かな感性、コミュニケーションから考える～」

共同助産所・お産子の家 代表 齊藤 智孝 氏

事例報告 「居場所づくりからみえてきたこと」

～SUKUSUKU かふえ実践報告～

SUKUSUKU かふえ 代表 湯室 美世子 氏

共 催 湖南省

◆催し物器具貸出事業【善意銀行事業】

地域での行事やイベントに必要な催し物器具を次のとおり貸し出した。

・貸出件数 合計 61件 〈昨年 33件〉

	かき氷機	綿菓子機	ポップコーン機	たこやき器	鉄板
5年度	12件	31件	17件	0件	1件
〈昨年度〉	(9件)	(16件)	(7件)	(0件)	(1件)

◆地域福祉大会の開催【地域福祉活動事業】

福祉関係者や地域住民が一堂に会し、地域福祉を考える交流の場として開催した。

期日：令和6年1月20日（土） 場所：湖南省社会福祉センター

○社会福祉協議会会長表彰状・感謝状贈呈 29個人、17団体・事業所

○わがまるフォーラム

地域での支えあい活動発表会（まちづくり協議会）

○表彰受賞ボランティアグループのステージ発表

○フード・販売コーナー、ものづくり体験コーナー、ふわわんをさがそう！

③寄付による福祉活動への参加

○共同募金等への協力を募り、必要とする市民や団体が活用できるよう取り組みました。

◆誰もがができる善意の支援活動の実施【善意銀行事業】

市内外から善意による金品の寄付を受け、寄付金の一部については地区活動助成事業やボランティアセンター活動事業に役立て、また米や物品などは生活困窮者や施設への提供あるいは本会やボランティア活動に提供するなど、多方面へ役立てた。

寄付総額 1,229,175 円 〈昨年 1,415,146 円〉

寄付物品 シルバーカー、米、石鹸、車椅子等

◆赤い羽根共同募金

○赤い羽根（一般募金） 実績 4,109,797 円

○歳末たすけあい運動募金 実績 2,271,160 円

- ・市民の皆様への戸別募金の協力依頼
- ・湖南市内企業さまへの法人募金の協力依頼
- ・湖南市役所、小中学校への募金協力依頼
- ・市内での啓発活動

10月2日甲西駅前にて街頭啓発（朝夕2回）実施

10月6日イオンタウン湖南にて街頭啓発

11月3日ボランティアまつりにて啓発活動 / あひるすくい、風船、小冊子の配布
各地域まちづくりセンターのまつり等にて啓発コーナーの設置 / 7センター
社会福祉センター、老人福祉センター、ふれあいの館に募金箱の設置
地域商店へ募金箱等設置協力 12店舗

【一般募金による助成(配分)事業】 総助成(配分)額 2,586,475 円

- ・福祉推進校助成金 8校へ助成 / 総額 243,740 円
- ・高齢者支援事業 13地域 / 総額 998,585 円
- ・地域福祉活動奨励金 市内全区 / 総額 531,150 円
- ・社協主催事業への助成 / 総額 813,000 円

【歳末募金による(配分)事業】 総助成(配分)額 2,271,160 円

- ・歳末たすけあい見舞金 決定件数 72世帯 / 配分金額 1,056,000 円
- ・75才以上独居高齢者歳末見舞品 対象 930名 / 物品購入費 401,157 円
- ・年末年始の緊急生活支援物資 / 物品購入費 29,971 円
- ・地域福祉活動奨励金 / 総助成額 200,000 円
- ・施設(GH・通所)主催年末・年始事業助成 34施設 / 総助成額 403,000 円
- ・剰余金(繰越金) / 181,032 円

◆子ども未来基金事業【子ども・子育て支援事業】

湖南省内で、支援が必要な子どもを対象とする事業を行う団体(子ども食堂、子どもの学習支援事業、その他子どもの支援に関する事業など)に対し、子どもの助成金を交付することによって、子どもの未来づくり活動、子どもの居場所づくりを推進することを目的とする。

① 【助成金の限度額】

助成金の種類	限度額 (1団体につき)
事業準備経費助成金 (初年度)	100,000 円
事業運営経費助成金	50,000 円

※重複申請可能です。

② 【助成金の対象経費】

助成金の種類	助成金対象経費
事業準備経費助成金	備品購入費、その他事業開始に当たっての初期経費
事業運営経費助成金	食材費、光熱水費、消耗品費、会場使用料、印刷製本費、保険料、報償費、通信費、その他事業運営に必要と認められる経費

※ ただし、団体内部の研修及び親睦のための経費は対象外とします。

※ 「(福) 湖南省社会福祉協議会生活困窮者支援基金」を財源とします。

◎令和5年度実績 5団体 230,000円(事業準備経費0円、事業運営経費230,000円)

4 地域や団体のリーダーの育成

①リーダー養成の推進

○福祉課題のある人を支えられるよう、各種養成講座をはじめリーダー研修等を実施しました。

◆地域リーダーの養成【地域福祉活動・ボランティア活動事業】

地域支えあい推進員を対象に研修会を開催した。

地域で活動する担い手を養成する「地域つながる応援講座」を年間通じて開催した。

◆手話・点字・朗読等に携わる人の養成講座の開催、支援

・視覚障がいについて学ぼう。ガイドボランティア養成講座【全2回】

① 視覚障害者センター職員による講演 ②ボランティアグループ「亀の子クラブ」の活動から～参加者延 30名

・点訳ボランティア養成講座(7～3月)【全9回】…グループ「昴」活動日に同時開催
参加 10名

・学生ボランティア講座(手話体験)ボランティアグループ「めだか」の活動～
参加者 3名

◆課題について協議する場づくり【地域福祉活動事業】

各学区の第2層地域支えあい推進員、まちづくり協議会と協力し、地域の課題やそれに対して自分たち住民ができること等について協議する場（協議体）の開催に向けて打合せを行い、多い学区では年間を通じてほぼ毎月開催することができました。

○ボランティアコーディネーターを育成するとともに、ニーズに応えられるよう、研修等を行いました。

②地域コーディネーターの育成

○第1層地域支えあい推進員が第2層地域支えあい推進員の活動を支援し、地域のニーズに応えられる活動に取り組みました。

◆地域支えあい推進員研修会および連絡会議の開催【生活支援体制整備事業】

2層推進員の養成に関する取り組みとしては、今年度新たに推進員やまち協役職員となった方がおられることを考慮し、5月に高齢福祉課・1層推進員の講演による事前学習会を開催し、生活支援体制整備事業・地域支えあい推進員の役割等、基礎的な内容について学ぶ機会としました。その後、7月には支えあい活動推進に関する具体的な手法等を学ぶ養成講座を開催し、淡路市社会福祉協議会事務局次長の主任生活支援コーディネーターである岩城和志氏にリモートで講演いただきました。加えて、今年度は初の試みとして、高島市社会福祉協議会の生活支援コーディネーターとの交流会を企画開催し、11月に2層推進員と共に高島市を訪ねました。交流会では、互いの地域の支えあい活動の紹介や、地域の高齢者を取り巻く課題等について意見を交わす貴重な時間となりました。

毎月第3水曜には、2層推進員全員が出席する「地域支えあい推進員ミーティング」を開催し、2層推進員同士の情報交換のための機会を設けました。昨年度に引き続き、地域の様子を各推進員に実際に目で見て、それぞれの推進活動の参考にしてもらうことを目的に、月替わりで各地域のまちづくりセンターや2層推進員の活動拠点で開催しました。

◆地域支えあい推進員の活動の周知【生活支援体制整備事業】

地域支えあいについて啓発・普及するための情報紙「わがまる通信」年間3回発行しました。各学区の支えあいに関する活動や居場所をジャンルごとに具体的に紹介することを目的に、実際に現地取材し、参加者・利用者や取り組んでいる住民の方に直接インタビューした内容を写真と共に掲載しました。

基本目標2 地域で支え合う力を高めるつながりづくり

ひとり暮らしの高齢者や子育ての不安に悩む親、障がいのある人など、地域には見守りや支援が必要な人が暮らしています。災害時などには、互いに助け合うことも不可欠です。安心して暮らせる地域をつくるために、困ったときに支え合ったり、助け合ったりできる地域のつながりづくりを推進しました。

1 地域における顔の見える関係づくり

①地域における交流・ふれあい活動の推進

○身近なところでの小地域福祉活動を推進しました。

◆小地域福祉活動推進研修会の開催【地域福祉活動事業】

地域つながる応援講座やわがまるフォーラムで小地域福祉活動についての啓発を行った。

○地域コーディネーターや主任児童委員などと連携し、子育てを通じた交流を支援しました。

◆子ども未来基金事業の助成【子ども・子育て支援事業】

基本目標1 - 3で記載の通り

◆「すずめの学校」子育て支援Vすずめへの協力【子ども・子育て支援事業】

6月～3月の間、子育て支援だけでなく、ボランティアとの交流を目的に全10回の開催に協力した。

②世代間交流の促進

○子どもと高齢者や青年層との交流、および子どもの遊びの場づくりを進めました。

◆ボランティアによる昔遊びの伝承の場づくりの支援【ボランティア活動事業】

基本目標1 - 2で記載の通り

◆世代間交流の場づくり【地域福祉活動事業】

市内4か所の子ども食堂に対し、寄付で受け付けた食料や物資を提供した。またロータリークラブ主催の子ども食堂サミットを支援・協力した。

子ども食堂サミット 令和6年3月24日（日） 三雲コミュニティセンター

③新たなつながり方の構築

○新しいつながり方を検討・実施し、関係機関や団体への普及に努めました。

◆ICT機器の使い方講習会の開催【地域福祉活動事業】

実施できなかった。

◆オンラインを活用したイベントの開催（つながる演奏会・カフェ）

【地域福祉活動・ボランティア活動事業】

実施できなかった。

◆あったかこころを届けよう♡みんなのおてがみプロジェクト【地域福祉活動事業】

広く市民に呼びかけ、閉じこもりがちな方や医療・福祉施設従事者に対して、応援メッセージを届けるプロジェクトを企画、実施しました。

市内こども園、小学校、中学校、高校、一般市民の方から約 1,950 枚のメッセージカードの提供。（前年度約 1,850 枚）

配布先）・医療機関・高齢者施設従事者・高齢者施設入所の方

約 1,000 枚 65 施設

・75 歳以上一人暮らし高齢者（歳末見舞品同封）約 950 枚

◆先進事例の情報提供と実行への支援【地域福祉活動・生活支援体制整備事業】

2 か月に 1 回、7 つのまちづくり協議会ごとに「まちづくり連絡会議」という定例会議を開催し、2 層推進員が孤立することなく、まちづくり協議会役員及びまちづくりセンター職員と一体になって支えあい推進活動に取り組んでいけるよう、情報共有・連携強化を目的とした時間を設けました。会議では学区の課題や今後の取り組みについて出席者全体で共有することをはじめ、他学区や他市町の支えあいの取り組みについての情報をやりとりする有意義な時間となるよう努めました。

2 地域コミュニティの強化

①まち協や区・自治会活動の促進

○地域担当職員を配置し、地域まちづくり協議会などの会議や活動の場に参加しました。

◆地域担当職員（地域福祉支援員）の配置【地域福祉活動事業】

基本目標 1－3 で記載の通り

○地域まちづくり協議会に対し、支え合い活動の立ち上げや運営の支援をしました。

◆絆づくり交付金事業【地域福祉活動事業】

みんなで支えあう安心の地域づくりを目指して、地域まちづくり協議会が行う事業に対して、交付金を交付しました。

まちづくり協議会に対し、地域の福祉課題を自主的に解決しようとするための事業に助成した。 まちづくり協議会 7 か所 上限 12 万円

②地域で活動する団体等への支援

○ボランティア団体や N P O、事業所等の地域活動を支援しました。

◆福祉団体等活動助成金の交付【助成事業】

民生委員児童委員協議会、老人クラブ連合会、甲西・石部赤十字奉仕団、更生保護女性会、身体障害者更生会、保護司会に活動助成を交付しました。

◆ボランティア活動助成金の交付、民間助成金申請の支援【ボランティア活動事業】

○地域で福祉活動を実践する住民や団体等の交流を促進しました。

ボランティア活動保険加入者（ボランティアセンター登録）567名（前年度594名）
ボランティア活動助成金交付団体 41団体（前年度39団体）

◆区（自治会）活動助成金の交付【助成事業】

各区の前年度（令和4年度：5,531,480円）の社協会費額の50%を地域福祉活動のために助成した。助成額合計2,765,500円 <前年度2,745,300円>

3 地域における見守りの充実

①見守り活動の推進 ②虐待・DVの早期発見・早期対応

○地域での見守り活動の推進に努め、ひとり暮らし高齢者などに対し、見守り活動についての周知を行い、利用を呼びかけました。

◆ふれあい給食による安否確認、生活支援サポーターによる見守りの実施

【地域福祉活動事業】

ふれあい給食 全22回実施

調理登録ボランティア数 18名 / 配達ボランティア数 22名

登録人数 60名 / 配食数 延べ921食 / 要安否確認 23回

生活支援サポーター

利用登録者数 16名 / サポーター登録数 31名 / 訪問回数 215回

○福祉についての学習会などで、虐待やDV、ひきこもり等の地域生活課題について、正しい理解と市民の関心を高めました。

◆市民向け権利擁護セミナーの開催【地域福祉権利擁護事業】

基本目標1-1で記載の通り

◆出前講座の開催【地域福祉活動事業】

開催回数：1回 / 参加人数：10名

依頼内容：自治会住民対象に「防災について」説明した。

③自殺対策の推進

○地域福祉権利擁護事業や生活福祉資金貸付の相談業務において、自殺のサインを見落とさないように努めます。また、地域の緩やかな見守り体制の構築に努めました。

◆生活福祉資金貸付事業等による早期発見【生活福祉資金貸付事業】

基本目標 3 - 2 で記載の通り

4 地域活動の基盤の充実

①地域における活動の拠点づくり

○指定管理施設の社会福祉センターやふれあいの館等の施設を市民が利用しやすいよう、利便性の向上に努めました。

◆施設管理事業、施設管理施設での活動発表の場づくり

【社会福祉センター・ふれあいの館・石部老人福祉センター管理事業】

社会福祉センター

市（福祉政策課）から指定管理（令和3年度～令和5年度）を受託し、貸館業務、施設管理業務、また施設事業として関連情報の提供やたまり場事業等を行った。

貸館状況

年間延べ	1,654 件	〈昨年	1,306 件〉
------	---------	-----	----------

平均	約 137 件/月	利用
----	-----------	----

ふれあいの館

市（福祉政策課）から指定管理（令和5年度～令和7年度）を受託し、貸館業務、施設管理業務、また施設事業として関連情報の提供やたまり場事業等を行った。

貸館状況

年間延べ	505 件/3,617 人	〈昨年	延べ 503 件〉
------	---------------	-----	-----------

平均	約 42 件/301 人	月	利用
----	--------------	---	----

「ふれあいサロン」の開催（たまり場事業） 毎週囲碁などを通して交流の場を提供した。

備品・文具の貸し出し ボランティアグループに対しマイク・アンプなどボランティア活動に必要な物を貸し出した。

老人福祉センター

市（高齢福祉課）から指定管理（令和5年度～令和9年度）を受託し、専従の管理人を配置して貸館業務、施設管理業務を行った。高齢者を対象にした風呂の利用を中止したが、サロンは9月から開催した。

貸館状況

年間延べ	600件/5081人	<昨年 延べ454件/3807人>
------	------------	-------------------

平均	約 50件/423人	月 利用
----	------------	------

= “和の湯” 利用状況（利用料1回 100円） =

年間延べ	0名	<昨年 延べ0名>
------	----	-----------

平均	約 0名/月	利用
----	--------	----

= 軽運動場管理事業 =

年間延べ	440件/4558人	<昨年 延べ412件/4225人>
------	------------	-------------------

平均	約 37件/380人	月 利用
----	------------	------

○ふれあいサロン「みんなのまめ講」の開催

新型コロナウイルス感染拡大防止の為8月まで中止していたが、9月から毎月1回開催した。

延べ	115名参加	<昨年延べ0名>
----	--------	----------

○老人福祉センター「将棋大会」の開催

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止した。将棋愛好者の利用がない為、今後は将棋以外のことを検討する。

②地域における協議の場づくり

○地域まちづくり協議会ごとの実施が求められている第2層地域支えあい推進会議の開催・運営を支援し、住民同士の協議を促進しました。

◆第2層地域支えあい推進会議の開催、運営支援【生活支援体制整備事業】

定期的に住民や自治会関係者等が集まり地域の困りごとや課題・今後必要な取り組み等について話し合う場が設けられた学区があり、その開催に向けてまち協・2層推進員と共に打合せを行った。

今年度は新たに地域のカフェ(居場所)の代表者が集い、それぞれの活動の情報交換や、今後の課題等を話し合う機会があり、有意義な時間を共有できた。

◆地域活動マップの作成支援【生活支援体制整備事業】

地域情報の見える化に向けての取り組みを推進しました。

2層推進員が収集した地域資源をまとめた資源リストの作成について、2層推進員にあらためて各地域の資源の内容を追加・修正したものを提出いただき、精査・整理した暫定版の湖南省全体の資源リストの作成に向けて進めてきました。

基本目標 3 安全・安心に暮らせる地域づくり

誰もが安全・安心に暮らすために、防災・防犯対策に取り組むとともに、様々な困難や生活上の課題を抱える人が必要な支援を受けられ、安心して暮らせる仕組みづくりを進めました。また、ユニバーサルデザインのまちづくりや、高齢になっても移動や住む場所に困ることがない生活環境の整備を推進しました。

1 防災・防犯体制の充実

①防災・減災の推進

○災害ボランティア養成講座を開催し、災害時のボランティアと災害ボランティアセンターの活動の啓発推進に努めました。

◆災害ボランティア養成講座の開催【地域福祉活動事業】

7月29日(土) 夢こらぼ 主宰 松尾さんの講義 38名参加

11月18日(土) 災害時のボランティア活動の実習(土砂の土嚢詰め、模型を使用した床下の土砂撤去体験など) 25名参加

※実施場所は湖南市社会福祉センター内または前面駐車場

・甲西北中学校の「防災フェスタ」に参画し、災害ボランティア活動の啓発、防災ゲーム、ボランティア活動体験、防災クイズなどを通して、訪れた市民に啓発を行った。

◆災ボラカフェの開催【地域福祉活動事業】

・災害について、市民が体験実習やゲームをとおして、語りあうことを目的に開催した。

5月19日(土) ロープワーク実習

○災害発生時に災害ボランティアセンターの設置・運営、ボランティアの受け入れやコーディネートを行うよう、設置運営訓練を実施しました。

◆災害ボランティアセンター設置運営訓練【地域福祉活動事業】

9月16日(土) 災害ボランティアセンター設置・運営訓練 49名参加

◆災害ボランティアセンター啓発活動とボランティア登録制度の推進

【地域福祉活動事業】

基本目標 3 - 1 で記載の通り

◆発災時に備え職員の初動体制と市外への派遣体制の確立【地域福祉活動事業】

基本目標 3 - 1 で記載の通り

②避難行動要支援者の支援

○災害ボランティアセンター設置運営訓練時に、災害ボランティアが災害時要配慮者を訪問して、情報提供とヒアリングを行い、平常時からつながる体制づくりに努めました。

◆災害ボランティアセンターのニーズ班活動訓練の実施【地域福祉活動事業】

災害ボランティアセンター設置運営訓練時に、ニーズの聞き取り訓練も併せて実施した。

事業継続計画作成の検討 災害についての情報収集と研修会の参加
災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施と参加

◆避難所運営の協力【地域福祉活動事業】

実施できなかった

③地域防犯体制の推進

○市、地域や関係団体と連携して、見守り活動や啓発情報の発信に取り組み、防犯意識の向上を図りました。

◆広報紙（ふくしの輪）等による情報提供【広報発行事業】

令和5年 6月発行（通刊50号 新聞折込）

令和5年 10月発行（通刊51号 新聞折込）

令和6年 2月発行（通刊52号 新聞折込）

◆社会を明るくする運動への参画【地域福祉活動事業】

法務省が主唱する犯罪を犯した人の更生と非行防止を運動の目的とする、「社会を明るくする運動」の啓発事業推進に協力した。啓発活動と推進大会の参画
湖南省推進大会

○日 時 令和5年7月3日（月） 場所 サンライフ甲西

○内 容 ・内閣総理大臣のメッセージ伝達式

・「被害者を苦しめない更生保護に」

少年犯罪被害当事者の会 代表 武 りり子 氏

・啓発のぼり旗の設置活動

2 困難を抱える人への支援の充実

①権利擁護の推進（成年後見制度利用促進計画含む）

○判断能力の不十分な認知症高齢者、障がい者等が自立し安心して地域生活を送れるよう支援しました。【地域福祉権利擁護事業】

○地域福祉権利擁護事業の周知を行うとともに、専門員や生活支援員の資質向上など支援体制の強化に努めました。

◆地域福祉権利擁護事業【地域福祉権利擁護事業】

判断の困難な方を対象に、日常の金銭管理や大切な物の保管など生活支援を行った。

・契約件数：60件 <昨年62件>

内訳：認知症高齢者等 10件 知的障がい者等 27件
精神障がい者等 18件 その他 5件

・年度内新規契約：6件（認知4、知的1、精神1、その他0）

解約：8件（認知1、知的2、精神0、その他5）

問い合わせ、相談援助件数	認知	知的	精神	その他	計
問い合わせ	6	1	2	1	10
問い合わせ初回相談	8	2	3	4	17
相談援助	712	1,454	1,934	536	4,636
計	726	1,457	1,939	541	4,663
<昨年度計>	(667)	(1,148)	(1,341)	(1,023)	(4,179)

○特定非営利活動法人ぱんじー（甲賀・湖南権利擁護支援センター）や市と連携し、成年後見制度に関する情報提供や利用支援に取り組みました。

◆成年後見制度の利用支援【地域福祉権利擁護事業】

甲賀圏域権利擁護支援推進協議会にて情報課題の共有を行った。

②生活困窮者への支援

○各種相談や事業において生活相談を行い、必要に応じて生活福祉資金の貸付や就労支援等へつなげました。

◆家計改善支援事業【生活困窮者家計改善事業】

市福祉政策課（自立相談窓口）等の各専門機関と連携し、生活困窮世帯を対象に家計管理を中心とした家計改善支援を行った。生活福祉資金貸付とも必要に応じて連携をとった。

項目	世帯数/件数
利用世帯数	9世帯/年 昨年（5）
相談件数	3件/年 〃（13）
支援件数	113件/年 〃（49）

※相談件数…契約前の相談数 支援件数…契約後の支援件数

◆生活福祉資金貸付相談【生活福祉資金貸付事業】

生活に困窮した方（世帯）からの経済的な悩みの相談を受け、必要に応じ貸付制度の利用手続きを進めたほか、善意銀行事業による生活食糧品支援や、生活保護の対象と考えられる世帯を行政へ繋ぐなど関係機関との連携を行った。

特例貸付の借入申請は、令和2年3月25日～令和4年9月30日までの申請の受け付けを行った。

令和5年1月からは特例貸付の償還が始まるとともに、償還免除、償還猶予の制度が設けられ、順次申請を受け付けている。また、返済の猶予申請者等の見守り支援を行っている。

○生活保護受給予定世帯を対象としての貸付（市）

種 類	件 数	貸 付
生活保護予定世帯繋ぎ小口資金		13（昨年 22）

○生活緊急一時としての貸付（県）

種 類	件 数	相 談	貸 付
緊急小口資金		172（昨年 101）	2（昨年 3）

※外…外国籍申請者

【特例貸付】…コロナで失業や収入が減った人が貸付対象

○失業による生活貸付（県）

※外…外国籍申請者

種 類	件 数	相 談	貸 付
総合支援資金		15（昨年 7）	0（昨年 0）
特例貸付（コロナ）		1125（昨年 1461）	0（昨年 126）

○特例貸付対応結果（県）

種 別	対応結果件数	
	総 件 数	外 国 籍
申請手続き支援	661	377
他機関・サービスへのつなぎ	44	7
社協継続支援	198	61
その他	150	75

○福祉による目的に応じた貸付（県）

種 類	件 数	相 談	貸 付
福祉資金		66（昨年 24）	7（昨年 2）
教育支援		41（昨年 40）	4（昨年 7）
不動産担保型生活資金		1（昨年 0）	0（昨年 0）

◆フードドライブ事業の実施【善意銀行事業】

生活困窮世帯等への食糧支援と食品ロス解消を目的に7月と12月に実施した。社会福祉センター等の社協管理施設、市役所、市内まちづくりセンター（5ヶ所）、三雲コミュニティセンター、サンヒルズ甲西、石部高校、甲西高校、岩根やまりゅう、医療生協こうせい駅前診療所、石部文化総合センターと、新たにイオンタウン湖南にのぼり旗と回収ボックスを設置して食料品の寄付を募り、市民の方々や法人より食料品の提供をいただいた。生活に困窮しているひとり親世帯を中心に合計403世帯に配布した。

	7月	12月
・食料品収集	: 6/26～7/15	11/24～12/16
・寄付総重量	: 約 1,159 kg	約 1,589kg
・配付世帯数（人数）	: 189 世帯	214 世帯
・協力団体	: 市内まちづくりセンター（5ヶ所）、三雲コミュニティセンター、サンヒルズ甲西、湖南市民生委員児童委員協議会、甲西赤十字奉仕団、石部赤十字奉仕団、更生保護女性会、石部高校、甲西高校、フードバンクびわ湖、フードバンク滋賀、水口青年会議所、岩根やまりゅう、医療生協こうせい駅前診療所、石部文化総合センター、イオンタウン湖南	

③子どもや子育てへの支援

○身近な公共施設等で子育て中の親子の交流の場づくりや、地域での見守り活動の推進に努めました。

◆未就園児の子と親を対象とするすずめの学校の支援【ボランティア活動事業】

基本目標2-1で記載の通り

◆多胎児家庭ホームヘルプサービス事業【子育てホームヘルプサービス事業】

多胎児を持つ世帯に対し、家事や育児などの生活支援ホームヘルプサービスを市受託事業として実施した。

延べ 3名、11回/年 <昨年計 3名、7回/年>

約 0.25名/月、0.9回/月 <昨年計 0.25名、0.6回/月>

◆子育て支援ヘルプ事業【子育てホームヘルプサービス事業】

生後3歳までの乳幼児のいる世帯に対し、家事や通院、育児など様々な活動の支援を市受託事業として実施した。

延べ 10名、30回/年 <昨年計 2名、3回/年>

約 0.8名/月、2.5回/月 <昨年計 0.15名/月、0.25回/月>

◆産後育児家事支援事業【子育てホームヘルプサービス事業】 令和5年度以降実績なし

出産後の退院日から2か月末までの乳児のいる世帯に対し、家事や育児など様々な活動の支援を市受託事業として実施した。

延べ0名、0回/年 <昨年計 5名、28回/年>

約 0名/月、0回/月 <昨年計 0.4名、2.3回/月>

④障がいのある人やその家族の支援

○障がいのある人やその家族の交流を図り、見守りの促進や相談支援を行いました。

◆障がい児余暇支援事業【子ども・子育て支援事業】

ホリフェス わくわくマルシェ

ホリデースクール委託事業の終了に伴い、障がい児を対象とした家庭や、学校以外の居場所を提供する事業に取り組んだ。また子どもたちに販売体験もしてもらい、今後の社会生活に生かせるような活動も行った。

開催日・内容	令和5年 7月 26日	創作活動	陶芸
	令和5年 8月 2日	創作活動	染物
	令和5年 8月 21日	創作活動	お香作り
	令和5年 10月 21日	親子ふれあいの集い	(販売体験)
	令和5年 11月 3日	ボランティアまつり	(販売体験)
	令和5年 12月 26日	クリスマス会	

◆障がい者相談支援事業【障がい者計画相談支援事業】

障がいのある人が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように、障がい者福祉サービス等の利用計画の作成等を行った。

利用者 延べ 31名/年 約 3人/月 <昨年延べ 26名/年>

◆訪問介護事業【障がい者総合支援事業】 ◆同行援護事業【障がい者総合支援事業】

障がい者総合支援制度に基づき、本会では居宅介護事業（身体障がい者ホームヘルプサービス・同行援護サービス）を実施し、利用対象者にサービスを提供した。

ホームヘルプサービス	同行援護サービス
利用者 延べ 264 名／年 ＜昨年 292 名／年＞	利用者 延べ 90 名／年 ＜昨年約 88 名／年＞
約 22 人／月 ＜昨年 24 人／月＞	約 7 人／月 ＜昨年 7 人／月＞
訪問回数 延べ 1, 425 回 ＜昨年 1, 768 回／年＞	外出回数 延べ 338 回 ＜昨年 318 回／年＞
約 118 回／月 ＜昨年 147 回／月＞	約 28 回／月 ＜昨年 26 回／月＞

《湖南省障がい者等移動支援事業》

屋外での移動が困難な視覚障がい者（グループ）に対して、外出のための支援サービスを提供した。

2 対 1	3 対 1
利用者 延べ 42 名／年 ＜昨年延べ 38 名／年＞ 約 3.5 名／月	利用者 延べ 25 名／年 ＜昨年 32 名／年＞ 約 2.0 名／月
訪問回数 延べ 124 回 ＜昨年延べ 118 回／年＞ 約 10.3 回／月	訪問回数 81 回 ＜昨年延べ 59 回／年＞ 約 6.7 回／月

⑤ひきこもりへの支援

○ひきこもりや地域で孤立している人が社会参加できるよう、集いの場などにつなげる取組を行いました。

◆地域資源の情報提供と参加支援【地域福祉活動、生活困窮者支援事業】

県域での資源マップを掲示、配布するとともに、県域ひきこもり家族教室の開催など、県社協、関係機関と協力した。

⑥再犯防止の推進（再犯防止推進計画）

○市や保護司等と連携して、更生保護への理解促進と再犯防止を支援しました。

◆社会を明るくする運動へ参画【地域福祉活動事業】

基本目標 3 - 1 で記載の通り

3 健やかに暮らし続けるための取組の推進

①身近な集いの場づくり

○市民が地域に出かけ、そこで同じ興味を持つ人同士が集える場、教室等への参加ができるようにつなげていきました。

◆集う場へ参加するきっかけづくり【地域福祉活動事業】

市内各学区で開催されている高齢者や子どもを対象とした様々な居場所や住民同士の支えあいの活動等について紹介する広報誌「わがまる通信」を年3回発行し、広く市民に地域活動を周知した。

◆地域リポーター（モニター隊）事業の取組

地域の方からお聞きした地域情報をSNSやホームページにより、広く情報提供を行います。また社協からのお知らせを定期的に行い、さまざまな活動を周知していきました。

昨年に引き続き、地域ごとに社協事業への提言、広報紙、配布物等の評価や意見あるいは地域の社協に関連する情報提供をいただく市民モニターを設置して、社協活動の向上につなげる「地域リポーター制度」の設置検討を行った。

◆男性の活動拠点づくりの支援【地域福祉活動事業】

昨年に引き続き、地域が主体となった男性の居場所づくりの設置について地域に働きかけの準備段階の年度であった。

②認知症対策の推進

○サロンなど様々な場面を通じて認知症に関する情報提供に努め、認知症予防や認知症への理解促進に努めました。

◆出前講座の開催【地域福祉活動事業】

認知症予防や理解の講座については、地域、福祉団体等から依頼がなかった。

◆みくも生きいきサロンの実施【生きがいサロン事業】

65歳以上の方を対象に健康維持、自立支援の助長、介護予防仲間づくりを目的に実施した。

実施場所 みくも地域人権福祉市民交流センター（三雲ふれあいセンター）

開設日 毎月第1、第3金曜日

登録者 17名
年 22回開催 延べ 295名参加<昨年延べ 296名>
平均 約 13名/回 参加

◆いきいきサロンなごみの実施【デイサービス事業】

要支援者と二次予防事業対象者の高齢者に趣味等の生きがい活動の機会と場を提供することを目的に実施した。

実施場所 石部軽運動場（石部老人福祉センター併設）

開設日 毎週火・水曜日

登録者 17 名<昨年 18 名>

年間 98 回開催 延べ 636 名参加 <昨年延べ 612 名>

平均 約 6 名/回、 約 53 名/月 参加

利用者の送迎 636 名/年

③健康づくり・フレイル予防の推進

○市民が興味のある活動や得意なことを行うことにより、やりがいや生きがいを持ち、地域で活躍できるよう支援に努めます。また、健康意識の向上やフレイル予防のため、健康づくりに関する情報の発信や意識啓発に努めました。

◆活動のコーディネートやボランティア活動の推進【ボランティア活動事業】

ゴーヤカーテンプロジェクト

ボランティアと市 19 か所（保育園 2 か所、幼稚園 2 か所、こども園 3 か所、小学校 1 ヶ所、中学校 1 か所、市外児童施設 1 か所、高齢者施設 5 か所、公共施設 4 か所）にゴーヤのカーテンの普及を推進するため、種まき、苗作り、棚にする竹の切り出し、棚作り、花壇作り、追肥やりなどをした。

④地域における生活支援の仕組みづくり

○おはなし（傾聴）サポーターを養成し、地域での声かけ・見守りに取り組むとともに、地域における住民主体の生活支援の取組を支援します。

◆ふれあい給食サービス【地域福祉活動事業】

基本目標 2 - 3 で記載の通り

◆おはなし（傾聴）サポーター事業【地域福祉活動事業】

基本目標 2 - 3 で記載の通り

◆生活支援体制整備事業【生活支援体制整備事業】

地域住民が主体となって取り組んでいる高齢者の生活支援・見守りを行う支えあい活動のボランティアグループが立ち上がった学区があり、現在も精力的に活動中である。今後は他の学区でも課題共有のためだけでなく、より具体的な取り組みにつながっていくような協議の場が開催できるようにサポートしていきたいと考えている。

⑤感染症対策の推進

○感染症等による地域停滞状態から脱却するため、地域でつながりを持ち続けるように努めました。

◆新しいつながり方の情報提供【広報発行事業】

湖南省社会福祉協議会 公式LINE、ホームページを随時更新しました。

◆オンラインによる交流促進【地域福祉活動事業】

実施できなかった

◆つながる演奏会【地域福祉活動・ボランティア活動事業】

基本目標2 - 1で記載の通り

4 安心して生活できる環境の整備

①バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進

○バリアフリーやユニバーサルデザインへの理解向上に取り組みます。

◆・小、中、高生福祉体験講座の開催【ボランティア活動事業】

基本目標1 - 3で記載の通り

◆福祉機器（車椅子）貸出事業【善意銀行事業】

車椅子の貸し出し 貸出回数 51回 〈昨年 57回〉

②移動しやすいまちづくりの推進

○地域の支え合いによる移送サービスの検討について、協議への参加と情報提供を行い、取組を支援しました。

◆地域まちづくり協議会での検討支援【地域福祉活動事業】

菩提寺まちづくり協議会では、移動に関する地域課題の解決を目指して協議が行われており、その協議の場の開催に向けての事前打合せ、開催当日に参加した。市内だけでなく県外の先事例の情報を提供してきた。

◆福祉有償運送事業の実施【福祉有償運送事業】

特定旅客自動車運送事業者(道路運送法43条及び78条を取得)として介護保険事業及び障がい者総合支援事業の契約者を対象に、通院や買い物など契約サービスと一体的に移送サービスを実施した。

延べ 272名、521回/年 <昨年計 279名、552回/年>

約 22名/月、43回/月 <昨年計 23名/月、46回/月>

③居住に課題を抱える人への支援

○居住に不安のある方に対し、生活相談と必要な支援につなげるように努めました。

◆生活福祉資金貸付等の生活相談支援【生活福祉資金貸付事業】

基本目標 3 - 2 で記載の通り

基本目標 4 適切な支援を届けるための体制づくり

制度のはざまや複数の分野にまたがる複合的・複雑的な課題がみられており、必要に応じて 複数の部署や関係機関等と連携して包括的な支援に取り組み、支援が必要な人をもらさない仕組みを検討しました。生きづらさを抱え社会的に孤立している人などに対し、アウトリーチによる支援、社会参加 のきっかけづくりや居場所づくりに取り組みました。

1 包括的な支援体制の構築

①断らない相談支援の構築

○権利擁護や生活困窮の相談において、複合的・複雑的な課題の発見に努め、必要に応じ適切な他機関につなぎました。

◆生活相談事業【生活福祉資金貸付事業】

基本目標 3 - 2 で記載の通り

②アウトリーチによる伴走的支援の強化

○自分から助けを求めることができない人へのアウトリーチによる相談や潜在的ニーズの掘り起こしに取り組みました。

◆民生委員・児童委員との連携【地域福祉活動事業】

フードドライブ事業や歳末たすけあい運動など、民生委員・児童委員との協働により、生活困窮者等の支援につなげた。

③参加・就労等の支援

○地域で孤立している人の社会参加のきっかけづくりに取り組みました。

◆コーディネーターによる地域資源とニーズのマッチングの実施

【地域福祉活動・ボランティア活動事業】

甲賀・湖南ひきこもり支援「奏 ーかなでー」、地域包括支援センター本所、介護支援専門員ちいきつなげ隊、社協の4者で行う連携会議を3か月に1回実施し、市内であがっている地域課題を共有するとともに、地域との接点が少ない方の社会参加や役割づくりへとつなげていくための意見交換を行った。

具体的な動きとしては、1月20日に開催した地域福祉大会において、社会参加の一環で、ひきこもり支援を受けている方が作った折り紙作品の展示を行い、市民に生活のしづらさをもつ方の活動を知ってもらう場を提供した。

④関係機関との連携強化

○市や関係機関と連携し、分野を横断したきめ細かい相談支援に努めました。

◆障害児・者サービス調整会議への参加【地域福祉権利擁護事業】

定例の障害児・者サービス調整会議へ参加した。

◆地域ケア会議等への参加【生活支援体制整備事業】

今年度も中学校区ごとに開催され、いずれの会議にも地域担当が出席し、地域の様々な課題とその解決に向けての情報共有を図れた。

2 情報発信・共有の充実

①福祉に関する情報の発信

○制度や事業に関する出前講座の実施や、地域福祉活動の先進事例の提供等を行いました。

◆出前講座の開催【地域福祉活動事業】

地域、福祉団体等から依頼がなかった。

◆広報紙（ふくしの輪等）による情報提供【広報発行事業】

基本目標 3 - 1 で記載の通り

◆公共施設、学校、商業施設への福祉情報提供事業【広報発行事業】

社協広報紙「ふくしの輪」を公共施設、学校、商業施設へ情報提供した。

◆ホームページ・ブログ等インターネットによる情報提供【広報発行事業】

湖南省社会福祉協議会 公式 LINE の作成、ホームページを随時更新しました。

②関係機関による情報の共有

○支援を必要とする人についての関係者会議の実施等、情報共有や関係機関とのネットワークの構築に努めました。

◆地域ケア会議や支援会議、地域支えあい推進会議への参加【生活支援体制整備事業】

各中学校区で開催された地域ケア会議には全て出席し、第2層の協議体(協議の場)に関しては、打合せの段階から参加し、まちづくり協議会・2層推進員と協議を重ねてきた。

③わかりやすくきめ細かな情報提供

○手話、点訳、通訳、翻訳などを必要とする人への情報提供を充実できるよう、ボランティアの育成と活動支援に努めました。

◆養成講座の開催、支援【ボランティア活動事業】

基本目標 1 - 4 で記載の通り

◆小、中、高生体験講座の開催【ボランティア活動事業】

基本目標 1 - 2、3 - 1 で記載の通り

3 福祉サービス提供体制の充実

①福祉人材確保の促進

○サービス提供事業者として人材の確保に努めます。また、職員のスキルアップを図るとともに、必要に応じて、地域福祉のノウハウを伝えました。

◆社協職員の地域派遣【地域福祉活動事業】

第 1 層地域支えあい推進員が地域の協議体や地域ケア会議等に出席した。また地域福祉支援員を配置しまち協行事に協力した。

②福祉事業所の確保

○制度のはざまなど福祉サービスのニーズを把握し、福祉事業者等による新たな事業の立ち上げや新規事業者の参入の支援に努めます。

◆地域や事業所と一緒に取組を考える仕組みづくり【生活支援体制整備事業】

さわらび福祉会が運営されている事業への協力として、ひきこもりの方の社会参加の機会創出を目的に、地域福祉大会にて利用者の方の折り紙やアクリルたわし等の作品を展示販売し、地域とのつながりづくりを目指すことができた。今後も引き続き市内の団体・事業所と共に取り組むことを検討していきたい。

③福祉事業所との連携促進

○市と連携して、多様な事業者によるネットワークづくりを進めます。

◆多分野ネットワーク会議の構築【生活支援体制整備事業】

基本目標 4 - 3 で記載の通り

◆第 1 層地域支えあい推進会議の開催【生活支援体制整備事業】

湖南市内の福祉団体や事業所、まちづくり協議会などが集まり、市内全域の支えあいの地域づくりについて話した。

○第 1 回 6 月 21 日 (水)

・モデル事例を通してのグループワーク ・八起会、健康推進員よりの活動報告

○第 2 回 11 月 22 日 (水)

・各まち協単位での地域カフェの実践報告会

・障がい者基幹相談センター、菩提寺にじいろの輪の活動報告

※ 会議後に各地域のカフェを実際に訪ねて交流を図った。

④社会福祉法人による地域貢献の推進

○企業の社会貢献活動や社会福祉法人による地域における公益的な取組の推進を図ります。

◆地域とつながる取組検討【地域福祉活動事業】

第1層地域支えあい推進会議において、福祉団体や事業所の出席をいただき、地域の支えあい活動について話し合った。

◆フードドライブ事業の実施【善意銀行事業】

基本目標3 - 2で記載の通り

4 地域福祉の推進体制の強化

①協働による地域福祉の推進

○地域や企業・事業者、市などと横につながるコーディネートを行い、協働による地域福祉の推進に取り組みます。

◆第1層および第2層地域支えあい推進会議【生活支援体制整備事業】

基本目標4 - 3で記載の通り

②市（市内）連携体制の構築

○市との連携を強化します。

◆市の市内連携組織への参加【社会福祉協議会全事業】

福祉政策課はじめ庁舎内の関係機関と事業の協議を行った。また、市関連審議委員会や協議会の委員として参画し、連携を持つことが出来た。

③関係機関・企業等との連携強化

○学校、地域の団体、ボランティア等との連携のほか、企業の社会貢献活動とのさらなる連携により、地域福祉の推進に取り組みます。

◆フードドライブ事業の実施【善意銀行事業】

基本目標3 - 2で記載の通り

◆財源検討部会の開催【本部事業】

開催できませんでした。

④関係職員の資質の向上

○コミュニティソーシャルワーカーとしての資質の向上のため、積極的な研修の受講を促進します。

◆職員研修および学習会の開催【本部事業】

滋賀県社会福祉協議会研修センターをはじめ市や関係する機関が主催する研修会に職員を参加させた。また、年2回本会主催の役職員研修を実施しました。
(詳細は本部事業報告のとおり)

【組織運営に関する事項】

本部事業

(1) 本部事業

《法人運営事務》

○理事会議の開催

開催日	案	件
5年6月1日	報告事項 議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号 議案第5号 議案第6号 議案第7号	会長・常務理事の職務執行状況報告等 役員・評議員等の報酬および費用弁償規程の一部改正(案)について 令和4年度事業報告書並びに会計決算書の承認について 第1回評議員選任・解任委員会の招集及び付議案件について 理事・監事候補者(案)の推薦について 評議員候補者(案)の推薦について 評議員選任・解任委員候補者(案)の推薦について 定時評議員会の招集及び付議案件について
5年6月15日	議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号 議案第5号	理事会招集手続省略に係る同意について 会長、副会長及び常務理事の選任について 顧問の委嘱について 評議員選任・解任委員の選任について 第三者委員の選任について
5年9月5日	報告事項 議案第1号	会長・常務理事の職務執行状況報告等 経理規程の一部改正(案)の承認について
5年12月18日	報告事項 議案第1号 議案第2号	会長・常務理事の職務執行状況報告等 令和5年度社会福祉協議会会計補正予算(案)について 定数職員の採用並びに定数に関する規程一部改正(案)について

	<p>議案第 3 号 理事候補者（案）の推薦について</p> <p>議案第 4 号 評議員会（書面決議）開催（案）について</p>
6 年 3 月 15 日	<p>報告事項 会長・常務理事の職務執行状況報告等</p> <p>議案第 1 号 令和 5 年度第二次補正予算（案）の承認について</p> <p>議案第 2 号 役員・評議員等の報酬および費用弁償規程一部改正（案）の承認について</p> <p>議案第 3 号 経理規程の一部改正（案）の承認について</p> <p>議案第 4 号 令和 6 年度事業計画及び予算（案）の承認について</p> <p>議案第 5 号 令和 6 年度基金積立金の積立及び取り崩しについて</p> <p>議案第 6 号 令和 5 年度第 3 回評議員会の招集及び付議案件について</p>

○評議員会の開催

開催日	案 件
5 年 6 月 15 日	<p>議案第 1 号 令和 4 年度会計補正予算の承認について</p> <p>議案第 2 号 役員・評議員等の報酬および費用弁償規程（案）の一部改正について</p> <p>議案第 3 号 令和 4 年度事業報告書並びに会計決算書の承認について</p> <p>議案第 4 号 理事及び監事の選任について</p>
5 年 12 月 28 日	<p>書面決議</p> <p>議案第 1 号 理事 1 名の選任について</p>
6 年 3 月 22 日	<p>議案第 1 号 令和 5 年度会計補正予算の承認について</p> <p>議案第 2 号 令和 6 年度 事業計画及び予算（案）について</p>

○監査の開催

開催日	おもな内容
5 年 5 月 25 日	令和 4 年度事業報告、決算、会務運営の監査について

○評議員選任・解任委員会

開催日	案 件
5 年 5 月 8 日	評議員 3 名の解任・3 名選任について

○役職員研修会

開催日	研 修 内 容
5年9月26日	ワールドカフェ「お互いを知ろう」「伝えよう」 出席役職員数 34名
開催日	研 修 内 容
6年3月5日	「人権研修 ハラスメントの種類について」 講師 山村 暁子氏（滋賀県人材センター） 出席職員数 40名

研修名	市主催「出会い・気づき・発見講座」①～③ 市主催「豊かなつながり創造講座」④～⑤
開催日 【内 容】	① 6月22日（木）【 思春期の子ども 】5名 ② 7月4日（火）【 身近な外国人 】3名 ③ 7月12日（火）【 LGBTQ 】5名 ④ 7月29日（土）【 子どもの人権 】5名 ⑤ 10月5日（木）【 若年性認知症 】12名

研修名	交通安全研修会「DVD 講座」
開催日	① 11月13日（月）午前11時～午後0時 ② 11月13日（月）午後4時～午後5時 ③ 11月16日（木）午後4時～午後5時 ④ 11月17日（金）午後4時～午後5時
内容	交通安全「生活道路での交通事故を防ぐために」 出席職員 15名
研修名	交通安全研修会「講習会」 11月9日（木）午後2時～午後3時 交通安全「生活道路での交通事故を防ぐために」 講師 甲賀警察署員 出席職員 23名

○第三者委員の設置と委員会

委員名	澤九仁男、植村恵子、古岡裕子
開催日	案 件
5年10月4日	・福祉サービス苦情体制について ・令和4年度福祉サービス苦情状況報告

○マスコットキャラクター「ふわわん」の活用

マスコットキャラクター「ふわわん」を活用し、缶バッジ、パネル、のぼり旗を作成した。

○社協会費の納入依頼と徴収

7月 世帯社協会費依頼と徴収 (5,278,920 円) ※前年 5,531,480 円

8月 法人・事業所社協会費依頼と徴収 (657,000 円) ※前年 717,000 円

(計 5,935,920 円) (計 6,248,480 円)

・高額社協会費 (30,000 円以上) 納入事業所の広告を本会広報紙に掲載

対象 7社 (前年 6社) 掲載 5社 (前年 5社)

【福祉サービスの提供】

(1) 訪問介護事業 (ホームヘルプサービス)

①介護保険認定者 (要介護者) にホームヘルパーを派遣する。

- ・サービス計画に基づいて、生活援助・身体介護・通院時乗降時介護サービスの提供
- ・県登録喀痰吸引等事業者として関係医療機関等の医師、看護師と連携しながら、訪問介護職員によるたん吸引等の介護サービスの提供

②介護予防・日常生活支援総合事業

ひとり暮らしなどで、日常生活を営むのに支障がある要支援者と二次予防事業対象者の高齢者に対し、家事の援助を行うホームヘルパーを派遣する。

- ・週1回、または週2回の生活援助に相当するサービスの提供

介護保険	介護予防日常生活支援総合事業
利用者 延べ 730名/年 <昨年 808名/年>	利用者 延べ 152名/年 <昨年約 179名/年>
約 60名/月<昨年 67名/月>	約 12名/月<昨年 15名/月>
訪問回数 延べ 10,268回 <昨年 11,291回/年>	訪問回数 延べ 888回 <昨年 1,145回/年>
約 855回/月 <昨年 941回/月>	約 74回/月 <昨年 95回/月>

③介護保険適用外サービスの提供

利用者から要望、承諾があった場合、訪問介護事業等を実施する中で、利用者の生活状況や身体状況から、家事援助や身体介護、通院付添いの介護保険適用外サービスを提供する。

介護保険外サービス	
利用者 延べ 98名/年	<昨年 120名/年>
約 8名/月	<昨年 約 10名/月>
訪問回数 延べ 361回	<昨年 延べ 499回 >
約 30.0回/月	<昨年 41.5回/月>

8. その他(おもな事務局事務ならびに出席した委員会)

事務局

- ・ 湖南市民生委員児童委員協議会事務局
- ・ 滋賀県共同募金会湖南市共同募金委員会事務局
- ・ 日本赤十字社滋賀県支部湖南市地区事務局
- ・ 湖南市介護保険事業者協議会事務局
- ・ 遺族会、その他福祉団体等の事務補助

市関連

- ・ 湖南市総合計画策定委員会
- ・ 湖南市民生委員推薦会
- ・ 湖南市地域福祉推進協議会
- ・ 湖南市子育て支援センター運営委員会
- ・ 湖南市要保護児童対策地域協議会
- ・ 湖南市子ども、子育て未来会議
- ・ 湖南市訪問看護ステーション運営委員会
- ・ 湖南市地域包括支援センター運営協議会（部会）
- ・ 湖南市地域支えあい推進会議
- ・ 湖南市介護保険運営協議会
- ・ 湖南市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会（部会）
- ・ 湖南市在宅医療介護連携推進協議会
- ・ 自立支援型地域ケア会議
- ・ 湖南市高齢者虐待防止対策推進協議会
- ・ 湖南市障がい者計画及び障がい福祉計画策定委員会
- ・ 湖南市障がい者の人権を守るための連携協議会
- ・ 湖南市障がい者施策推進協議会
- ・ 湖南市福祉有償運送運営協議会
- ・ 湖南市人権まちづくり会議
- ・ 湖南市人権擁護審議会
- ・ 湖南市企業・事業所人権啓発推進協議会
- ・ 隣保館支援方策検討会（三雲、夏見、石部）
- ・ 湖南市自殺対策計画策定委員会
- ・ 健康づくり湖南推進協議会
- ・ 湖南市交通安全推進協議会
- ・ 湖南ひきこもり支援『奏—かなで—』運営会議（部会）
- ・ 湖南市青少年育成市民会議
- ・ 甲賀地域障がい児・者サービス調整会議（全体会議、部会）
- ・ 特定非営利活動法人ぱんじー「甲賀・湖南権利擁護支援センター」（なんでも相談）
- ・ 市内各地域まちづくり協議会（支えあい推進会議、委員会、部会）